

他科の先生に  
知って欲しい

## 豆知識・・・透析医編①

### 日常診療に役立つ電解質異常の見方

川崎医科大学附属川崎病院 大城 義之  
腎臓内科/透析センター



慢性腎臓病の普及に伴い様々な腎疾患の患者さまをご紹介いただく機会も多くなりました。本日は外来診療でもお役に立つ電解質異常についてご紹介させていただきます。一般に電解質というとNa K Clを思い浮かべるのではないのでしょうか。Na異常やK異常は日常診療でも良く遭遇し、特に高K血症は心停止につながるため緊急の紹介も多い電解質異常です。Clは高値となっても見過ごされていたりするケースが多く、意外と注目されておりません。では慢性腎不全ではどうし

てClが上昇するのでしょうか。腎機能低下に伴い $\text{HCO}_3^-$ が喪失するため、陰イオンを補う形で代償的にClは上昇します。すなわち我々腎臓専門医は、腎機能の低下時にClの上昇を見て代謝性アシドーシスの存在を疑います。実は $\text{HCO}_3^-$ を補う、すなわち重曹の投与によりアシドーシスを改善することで、腎機能が保持されるのみならず、高K血症の治療にもなります。次に電解質の1つであるCa異常についてご紹介いたします。電解質=ナト、カリ、クロールと知られており、当院でも緊急の電解質検査にCaは含まれておりません。しかし、高Ca血症は意識障害を来しますし、腎障害も引き起こします。また低Ca血症は血圧低下や筋痙攣、心電図異常も来すためCaは重要な電解質です。慢性腎不全では腎臓でビタミンDの活性化障害がおこり、腸管からのCa吸収が阻害され低Ca血症を呈します。そのため、適切にCa濃度を調節する必要があります。また、慢性腎不全では腎臓からのCaの排泄能力も低下するため、骨粗鬆症対策として処方されているビタミンD製剤やCa製剤の投与により、容易に高Ca血症を来します。腎機能低下精査をというご紹介の原因が、高Ca血症であったことも時々経験いたします。その他にも、現在注目されている電解質にPがありますが、血清Pの上昇に伴う様々な病態については他項に譲りたいと思います。明日来院される患者さんの採血結果でClに注目し、またCaの測定を加えてみてはいかがでしょうか。

最後に、川崎病院は本年12月より新築移転し、病院名も川崎医科大学総合医療センターとなります。今後とも地域に根ざした医療を行って参りますので、ご支援ご鞭撻の程何卒宜しく願いいたします。